

= 白・黒？ =

先日、連合会議に出席のため久々に荻窪から御茶ノ水まで中央線の電車に乗った。相変わらずの混みようであったが中野駅停車中、ふと窓の外に目をやると強い日差しの中で煙をくゆらせる10人ほどの男女の姿が目に入った。中野駅北口の喫煙所、檻といえ失礼だが箱の中に身を寄せ合って煙草を喫している光景である。

東京都で受動喫煙防止条例が可決された。子供たちや妊婦の皆さん、タバコを吸わない人に影響の無きようという事は重々承知している。ただ、タバコは嗜好品（栄養分として直接必要ではないが、人間の味覚、触覚、嗅覚、視覚などに快感を与える食料、飲料の総称）として扱われている割には肩身の狭い代物、愛煙家にとっては税金を人一倍払っているのに情けない話でもあろう。わたしはタバコを吸わない。だからこそ、お叱りを覚悟で言わせてもらえば、少しでも喫煙者の立場を理解してあげてもいいのではと思うのである。他人さまに迷惑をかけてはいけませんが、煙草は絶対、悪と決めつけるのもいかなものか。もちろん、受動喫煙の防止は時代の要請、健康被害を防ぐためのものであり喫煙者はちゃんとマナーを守ることが大前提であるが…。

ところで、今春より小学校において外国語教育の導入や道徳が教科となった。私の年代には懐かしい響きの道徳とは、善悪をわきまえて行動するために守らなければならない規範であり、法律とは違い内面的に存在する正しい行動の原理である。その道徳に関わる新聞のコラムを見つけた。

「人数の多い方が正しいってどうして言えるの」「ついていい嘘とついていけない嘘って？」子供の無垢なる問いかけにたじろぐことがあるとの書き出しで、「道徳の問題、どう解く？（ポプラ社）」という本も紹介している。その中の著名人の答えの一つに“嘘と本当を黒と白みたいに、正反対のものにとらえるのは単純すぎる”というものを取り上げ、個々の内面的な原理として働く道徳をどんなふうに教えるのか、国語・算数と同様に教科書を使い評価される現場で戸惑いの声も聞かれようと触れている。

子どもたちに道徳を説く教職員の皆さんのご苦労は計り知れないが、子供たちがさまざまな視点から話し合い、迷いながら自分なりの答えを出し、自分とは違う答えを持つ友達の意見にも耳を傾け、少し自分とは違っても、そんな考えもあるんだと思えるようになればきっと大きな人となり、その学びは大事な宝物ともなるだろう。

自身はと問われれば、遠い昔、道徳を学んできた身ながら心もとない。自分の主張を押し通してはいないか、相手の立場で物事を考えているか、結論を急いではいないか、100点ばかりを見ていないか、思えばきりが無いが、時には白・黒に執着せず、太い気持ちを持ちたいものだ。相手の立場にたつて物事を考え、受け止めることができれば、ハラスメントやいじめも消え、もっともっと優しい社会ができるのではなかろうか。

紹介したコラムの最後に、日本の観客は、なぜ競技場のごみを拾うのか、外国人記者の質問に、吉田麻也選手が応じた。日本には「来た時よりも美しくという言葉がある。」大事な一戦を前に、さらりと自国の美学を説ける。そんな技量もまた、道徳を測る指標と言えまいか、と結んでいる。学ぶことはまだ多い。

ご安全に

2018年7月3日
日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一